特定非営利活動法人AMDA国際医療情報センター
第51回第一生命保健文化賞　厚生大臣賞　NHK 厚生文化事業団賞　朝日新聞厚生文化事業団賞
第14回東京弁護士会人権賞（以上平成11 年）
第 1 回読売ブルデンシャル福祉文化賞奨励賞（平成16年）

News Letter

2020.10
No.105

在日外国人に日本人と変わらない医療を

● 巻頭特集

COVID-19 多言語電話相談窓口

年明け早々から、クルーズ船ダイアモンド・プリンセス号内で発生した未知の感染症 COVID-19 の感染拡大により世界各国と同様に日本中が混乱した。

軽症からアッという間に重症化し人工呼吸器が必要になる病態に誰もが恐れを抱いたと思う。政府の対応が追いつかないまま確率が 100％とは言えない PCR 検査を求めて保健所には電話が殺到しなかなか繋がらない事態が続き重症者が入院できない状況に人々は恐れ慄いた。

なぜ迅速に検査を受けられないのか、なぜすぐに入院できないのか国からの説明が十分ではなかった故に、医療現場の実態を知らない人々はマスメディアの情報だけを頼りに言われのない恐怖の日々を送り不安と苛立ちを募らせていった。「日本人でさえこのような状況の中で、日本語が十分理解できない在日外国人はどんなにか不安を募らせているだろうか」と筆者は彼らに思いを馳せていた。「こんなときこそ我々の出番なのに」と。

そのような時に小林米幸理事長から一本の電話が入った。「当センターの COVID-19 に関する外国人のための多言語電話医療相談に対して日本医師会が財政的支援をすることを決定した」と。期間限定ではあるが日本の医師・医療に大きな影響力をもつ日本医師会が AMDA 国際医療情報センターが長年取り組んできたことを評価し協働作業を決定した歴史的瞬間であった。

4 月 10 日から 5 月 20 日まで COVID-19 に特化して多言語電話相談の対応時間と回線を拡大し Facebook などで情報発信を続けた。症状の説明・疑いが考えられるときの行動の手順など 9 カ国語による発信が毎日のように更新され、身内ながら「すごいなぁ、少しでも多くの人々に届くように」と祈りながらシェアしていった。

毎日送られてくる報告書を見ると病状に関することだけでなく「なぜすぐに検査を受けられないのか」「不安な気持ちを聞いて欲しい」「外国人だから排除されているのではないか」など予想された通りの相談が多く寄せられていた。相談員が疲弊してしまうのではないかと懸念している内にようやく少しずつ国や東京都の対応、医療の実態などが知られるようになり、日本人が落ち着いてきたと同じような状況で病状に関する相談件数は減ってきた。しかしながら新型コロナウイルスによる飲食店などの休業により日本人の非正規雇用者が職を失う状況と同じく生活苦を訴える外国人の相談が増えていった。

今回初めて日本医師会との協働による多言語電話医療相談窓口が設置されたが、日本で働く外国人が生活全般について母国語で相談できる公的窓口はない。区役所などの窓口ではようやく英語や韓国語の表記を見かけるようになったが、まだまだ外国人技能労働者を増やしていこうという国の方針に追いついてはいない。当センターの日頃の電話相談にもこうした生活全般に関わることが多く寄せられ、センターが適切な窓口の案内をしているような状況が多く見受けられる。

AMDA 国際医療情報センターは、このように重大な任務を果たしているにも関わらず公的機関の強力なバックアップもなく知名度が低いのが悩みである。営利目的の企業が入りこんでくる気配もあり、今後さらに在日外国人が増え続けるであろう時代に即した体制が一刻も早く確立されるよう願っている。筆者は、難民に関わる組織にも関係しているが、「日本に憧れてきたものの外国人にとって決して暮らしやすくずっと住み続けたい国ではない」と言われることは非常に残念なことである。

日本に暮らす、あるいは滞在する全ての外国人が安心して暮らせるように医療のみでなく生活全般について相談できる恒常的な組織が必要であり、ひいては医療や職を提供する側にとっても重要なことであると考える。

AMDA 国際医療情報センター　監事　　高岡　邦子

● 活動・サービス内容

多言語相談電話番号：03-6233-9266

●対応時間　月曜日～金曜日 10：00 ～ 16：00

アムダ通訳専用ライン：医療機関向けサービス

上記電話番号にお問い合わせください。

●対応時間　月曜日～金曜日 10：00 ～ 15：00

● センターホームページ「問診表等外国語版」のご案内

アドレスはこちら！ダウンロードもOK!

https://www.amdamedicalcenter.com/

ホームページが新しくなりました。

外国人および医療機関向けに問診票を始めとする文書・書式を英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、日本語で作成（「こころの健康を守るために」はタイ語、ベトナム語、ハングル、フィリピン語版もあり）。ぜひご利用下さい。

AMDA国際医療情報センターで受けた相談電話から
新型コロナウイルス感染症への対応を考える

2020年の年明けから世界を席巻している新型コロナウイルス感染症。寄せられる相談電話もコロナ関連のものが多くを占めますが、その対応はかなり手探りで苦慮してきた感があります。それはひとえに、相談者が求める内容に社会の状況が追いついていないからだといえるでしょう。今回は、相談電話の内容から、日本のコロナ対応の現状とこれからの展望を考えてみたいと思います。あらかじめ断っておきますが、筆者としては社会の状況を批判したいわけではありません。社会が混乱する中、各方面の方々もまさに手探り状態で対応されているであろうことは想像に難くないからです。ただ、このような現状があるということを知っていただきたいと思っています。

症状があるため受診したいが近医で受診できない

感染拡大防止の観点から診療を制限されている医療機関が多く、発熱、咽頭痛、咳、倦怠感、体の痛み等の症状がある場合、連絡なく医療機関を訪れると受診できないことがあります。いつも受診している医療機関であっても事前に保健所に相談したかどうかを問われたり、他の症状の患者さんと接触しないように診療時間を別にしていたりなど、対応も医療機関によって分かれます。こうした対応が外国人差別と誤解されかねないため、当センターではその理由を相談してきた方に説明するようにしています。言語の通じる医療機関がそもそも限られる中、さらに診療していただける医療機関が少なくなっている現状ではありますが、症状のつらさや感染防止対策を考え、できるだけ移動距離が短くなるように受診できる医療機関を探して案内するようにしています。

症状があるのでPCR検査を受けたい

これだけ世界中で騒がれている感染症ですから、コロナを疑う症状があれば検査したいという気持ちになるのは仕方のないことです。ですが日本では、検査体制が拡充されてきているとはいうものの、まだまだ受けたい人が自由に受けられるわけではありません。周囲にすでにPCR検査陽性となった方がいて、その方が相談者を濃厚接触者として保健所に報告してくれているということであれば自己隔離の上、居住地（正確には住民登録地）の保健所からの連絡を待つか、こちらから保健所に連絡して周囲に陽性者がいることを伝えて指示を受けます。ここで保健所から濃厚接触者として認められなかった場合は、かかりつけ医またはコロナを疑う症状があっても診察可能なクリニック（発熱外来といっています）を受診し、医師からPCR検査が必要と判断されれば、検査を受けられる施設を案内されます。または、PCR検査も行っているクリニックであれば、その場で検体を採取してもらえます。ちなみに、どのクリニックが保険診療でPCR検査を行っているかは、原則的には一般公開されていません。発熱外来を案内したとしても、そこがPCR検査の検体の採取は行っていない医療機関だと、診療を断られたといって再度相談電話がかかってくることがあります。その場合はおそらくPCR検査をしたい希望を先に伝えたためにクリニックからそれはできない、と言われてしまうということになってしまったのでしょう。このことも含め、まずは受診して相談するように説明しています。

症状はないがPCR検査を受けたい

これにはいくつかのケースがあります。まずは前項と同様に接触歴があるかないか。濃厚接触者であれば保健所を通してのPCR検査になりますが、検査でたとえ陰性であっても、また検査を受けられなくても接触歴があるのなら14日間自己隔離していただくように「要請」されるということになります。日本の場合、あくまで「要請」で「強制」ではありません。少し前は「日本では強制なのか、外出すると罰せられるのか」という質問もありました。最近ではこのような質問はなくなりましたが、かといって「あくまで要請です」と強調するのは外出してもよいと促すようでもあり、伝え方に苦慮します。

一方、コロナを疑う症状があり、職場や学校の独自規定で自宅待機した方が、出勤または登校するのにPCR検査で陰性であることを証明するように言われたという相談もあります。原則日本では、たとえPCR陽性だった方でも、保険診療適用または公費負担での陰性確認はしていません。発症した日もしくはPCR陽性と判明した日から14日間経過し、症状がなければ感染防御策を講じながら通常の生活に戻れることになっています（大きく報道はされていないようですが）。このため、出勤・登校についてはこの現状を伝え、職場または学校の方とご相談くださいとご案内することになります。

自費PCR検査について

前項で保険適用でPCR検査を行っている医療機関は公開されていないと書きましたが、ビジネス目的での渡航予定がある場合に限りPCR検査を行っている医療機関のリストというの

が経済産業省から公表されています。帰国を希望する外国人の方にはこのリストに基づいて医療機関を案内しますが、このリストの医療機関の中にはビジネス渡航目的以外では検査を受け付けないところもあり、外国人に案内する際には注意が必要です。また、PCR 検査の証明は「入国前○○時間以内のもの」という制約があることにも要注意です。日曜祝日に検査できる医療機関はほぼないに等しいのに出発日は日本の連休明けだとか、出発日があまりにも切羽詰まっていて予約が取れない、というようなことがあるため、検査日程を考えてフライトの予約をするように案内したいところですが、なかなか周知は難しいのが現状です。

今後の展望

現在でも陽性者との明らかな接触歴がない場合で症状や PCR 検査について相談する場合はかかりつけ医へまずは連絡するように促されていますが、秋以降はこれまで以上に、まずは地域の医療機関へ相談するようにとの方針が強化される見込みのようです。これまでも現場は患者側も医療機関側も、そして間に立つ私たちも困惑していましたが、今後もインフルエンザシーズンと重なることで更なる混乱が予想されます。これに対し筆者は社会の共通理解がより一層必要になると考えています。それは、基本的な感染予防対策についての継続、症状がある間は社会活動を控えることと同様に自宅療養期間を経て出勤・登校することを社会通念として認めることだと考えます。年齢や個人のもつ背景により、病気への恐れ方は人それぞれあるかと思いますが、そうした個人差も認めあえる社会の寛容さが今後は必要になってくるのではないでしょうか。

（事務局 K）

こどものころのおやつ

私の故郷は南アメリカ・エクアドルのクエンカと言う街です。標高 2530m のアンデス山脈の中にあるエクアドルで 3 番目の高原都市で、500 年前のコロニア建築が当時のまま街ごと残り世界遺産に認定されました。赤道直下の街なのに標高が高い為、一年中 24 ～ 5 度の高原性気候です。年間を通し昼は半袖のブラウスを着て、夕方から涼しくなりポンチョを羽織ります。

私は男 5 人、女 2 人の 7 人兄弟の末っ子として育てられました。子供の頃は学校から帰り、勉強道具を家に置くとすぐにお兄さん達と一緒に公園や野原で遊んだものでした。私はお転婆でお兄さん達と大きな樹に登る、木登り遊びが大好きでした。特にお気に入りの大きな大木の「カプリ」と言う樹にいつも登っていました。カプリの樹には日本の丁度サクランボの様な実が沢山なっています。濃紺色で、食べるととても甘くて美味しいので、子供達に大人気でした。私もお兄さん達に負けずに実を取り「おいしいネ」と言いながら食べていました。

夕方のミサの時間を告げる教会の鐘が聞こえる前がそろそろ帰宅する時間です。ワンピースのポケットにとったカプリの実を一杯に詰め込んで急いで帰ります。帰宅すると母が夕食の準備をしています。お転婆をしてワンピースが木の枝に引っ掛り破けてしまうとママから大目玉です。着替えているとお兄さん達から「早く来ないとお前のおやつが無くなるぞ」と脅かされます。外でいっぱい遊んで来るので子供達はみんなお腹がペコペコです。夕食の準備が出来上がる間に食べるのがちょっと遅い私達の「おやつ」になります。

「おやつ」は色々有りますが、子供達が大好きな油で揚げたお菓子で名前は Empanada de Viento（風のエンパナーダ）を紹介します。

種類は 3 種類有り、トウモロコシ粉や小麦粉、青いバナナを潰した物等で生地を作ります。これを手でよく練ってから丸い棒を使って伸ばし、日本の餃子の皮を二回り程大きくした厚手の丸い生地を作ります。これを二つに折りたたむのですが、中にチーズを入れます。

中身を入れて折り畳んだら半円形の丸い縁を指でしわを作りながら閉じます。これを熱した油に入れるとふっくらとふくれ上がり、皮がパリパリで熱々のエンパナーダの出来上がりです。熱い内にザラメのお砂糖を多めにまぶすと皆が待ち遠しいおやつになります。甘い砂糖と中のチーズの塩分がミックスしパリパリした美味しいエンパナーダはカフェ・オレかホットココアと一緒に頂くのが定番です。そして食べながらワンピースのポケットの底に残っているお昼に採ったカプリの実をこっそり食べるのも楽しみでした。

（スペイン語相談員 K）

出版社：
2003 LEXUS EDITORES
書籍名：
La Cocina Ecuatriana

ご寄付のお願い

当センターは会費・寄付などにより運営されています。ご支援よろしくお願い申し上げます。

会員募集：センターの活動を援助してくださる会員の方を募集しております。
当センターは特定非営利活動法人 AMDA（本部岡山）とは別会計で、独立した会員制度を設けております。
AMDA 本部の会員とは別ですので、お間違えのないようお願いいたします。

【会員の種類と会費】 4 月 1 日～ 3 月 31 日までを 1 年度とする

年 会 費	個　人	1 口 6,000 円	団　体	1 口 20,000 円
賛助会員	学　生	（高校、大学、専門学校生）		1 口　2,000 円
	ジュニア	（中学生以下）		1 口　1,000 円

個人会員および団体会員は半年ずつの分納が可能です。
4 月から翌年 3 月までを 1 年間といたしますが、初年度のみ、10 月以降に賛助会員に加入される場合は、個人会員は 3,000 円で、団体会員は 10,000 円でご入会いただけます。賛助会員は何口でも結構です。

【寄付】 おいくらからでも結構です。

会員および寄付の振込先

郵便振替　00180-2-16503
加入者名　AMDA 国際医療情報センター
＊銀行振り込みご希望の方は、お手数ですがセンター東京（Tel: 03-5285-8086）までご連絡下さい。

消化器科・外科・小児科
小林国際クリニック
Kobayashi International Clinic
小林國際医院
【診療時間】
平　日　午前 9:15 ～ 12:00
　　午後 2:00 ～ 5:00
土曜日　午前 9:15 ～ 午後 1:00
休診日：　水、日、祝日
〒 242-0005
神奈川県大和市西鶴間 3-5-6-110
（小田急江ノ島線　鶴間駅下車徒歩 4 分）
TEL：046-263-1380
http://5884-international-clinic.com

医療法人社団　慶泉会
町田慶泉病院
PAX INTRANTIBUS SALUS EXENTIBUS
（旧町谷原病院）
外科・内科・整形外科
肛門科・泌尿器科
血液透析センター・療養病床
回復期リハビリテーション
訪問看護ステーション
〒 194-0005
東京都町田市南町田 2-1-47
TEL：042-795-1668
https://www.machida-keisen.com/

内科・リハビリテーション科
医療法人　隆福会
福川内科クリニック
【診療時間】
平　　日　午前 9:30 ～ 12:00
　　午後 4:00 ～ 6:30
土・日曜日　午前 9:30 ～ 12:00
休　診　日：　木曜日、祝日、2、4、5 日曜日
〒 537-0024
大阪市東成区東小橋 3-17-7
TEL：06-6974-2338
https://www.takafukukai.com/

編集後記

9 月に入ってもまだまだ暑い日が続くが、市場に出回るくだものを見ると季節が確実に移り変わっていくのを感じられる。東京都稲城市は梨の産地で、今年も梨販売農家のぼりが連なる時期となった。各店舗を見比べ、多少見劣りはするが価格が下がるものをお買い得に手入れるのも、近所に住む者としての楽しみの一つだ。だが、今年は浮気をして違う産地のものを取り寄せている。さて、味はどうだろう。

編集発行：特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター

センター東京：〒 160-0021 新宿区新宿歌舞伎町郵便局留　TEL 03-5285-8086　FAX 03-5285-8087
町田オフィス：〒 194-0005 東京都町田市南町田 2-1-47　TEL 042-799-3759
※郵便局留でメール便を送っていただくことはできませんのでご注意下さい。**お問い合わせ、発送物はセンター東京（新宿）へお願いいたします。**

発行責任者　特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター理事長　小林米幸

理事長受賞歴：外務大臣表彰（平成 13 年）、（財）アジア福祉教育財団より感謝状（平成 13 年）、慶応義塾大学医学部三四会奨励賞（平成 15 年）、神奈川医学会学術功労賞（平成 17 年）、かながわレッドリボン賞（平成 24 年 3 月 26 日受賞式）、神奈川県県民功労賞（平成 27 年）、第 46 回読売医療功労賞（神奈川県）（平成 30 年）、公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰（令和 2 年）
制作：株式会社インターブックス